ランピースキン病

ランピースキン病とは

病原体
ランピースキン病ウイルス（ポックスウイルス科カプリポックス属）

宿主
牛、水牛（※人への感染はない）

症状
皮膚の結節や水腫、発熱、抑うつ、リンパ節の肥大、粘膜の結節、鼻や目の出血、乳汁の減少、脚の腫れ、跛行など。泌乳ピーク期の乳牛や子牛で症状が重い、生産性低下・経済的被害大、死亡率１～５％ 。

伝播方法
・ベクター（蚊、ハエ、ダニなど）によって機械的に伝播。
・汚染された飼料、水、器具を介して感染。（肉による伝播リスクは無視できる）

予防と制御
海外では主に感染地域の牛の移動制限、症状のある牛のとう汰、及びワクチン接種が行われている。



出展：WOAHウェブサイト（https://www.woah.org/en/disease/lumpy-skin-disease/）
FAOウェブサイト（http://www.fao.org/fileadmin/user_upload/eufmd/LSD/LSD-002_text_NO_logos__2_.pdf）